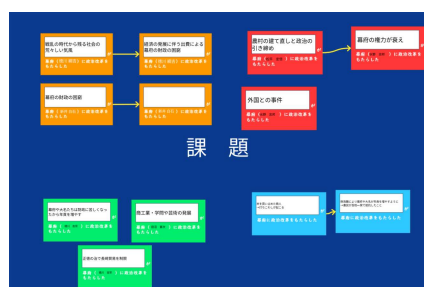


授業の成果と課題

1 授業の実際

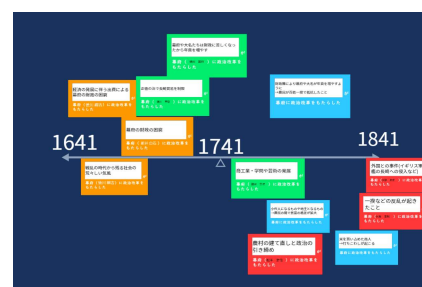
(1) 板書（共有ノートの画面）



【政治改革の要因を調べる場面】



【四つの視点で整理する場面】



【時期の視点で整理する場面】

(2) 生徒の学びの実際

- 「幕府の政治改革が必要になった要因は何か」という単元を貫く問いに対して、学習前の自分の予想では「幕府に反対する人が多くなってきたり、外国からの影響を受けたりしたのではないかな」だった。いつもなら1時間の授業で少しずつ答えが分かっていくことが多かったけど、今回は単元全体をタブレットで視点ごとに大まかな出来事や内容を分類してみると、政治の動きと社会の様子に関することが多く、その中でも経済的なことや人々の不満に着目して、江戸幕府の改革の内容を押さえていけば理解が深まると思った。タブレットを使えば導入の段階でも単元全体の大まかな流れを効率的に知ることができると実感した。
- 前の単元で江戸幕府の成立とその仕組みを学習し、幕府が安定しているにもかかわらず政治改革が続いていることに疑問を抱いた。この違和感は、これからの学習を楽しくさせてくれると思った。また、単元が始まってすぐに、カードを色分けして視点ごとに役割分担して整理していく活動が新鮮だった。この整理したものを単元の学習後にもう一度見直せば、より理解が深まるし、単元の終わりになって改めて整理・分析する必要もないと思った。四つの視点はどの時代にも着目して追究する際に必要になってくるので、タブレットを有効活用しながら授業に取り組んでいきたい。
- 江戸幕府の政治改革について、タブレットを使うことでその課題の要因をある程度つかめた。今回は四つの視点で分担して追究したけど、次の明治時代では学習計画や方法なども自分たちで決めて行うので、タブレットで検索したり効率的にまとめたり、新たな視点から時代を見たりして、自分たちなりの学習方法で明治時代の特色を理解していきたい。

2 成果（○）と課題（●）

- 導入で、タブレットを活用して追究の視点を設定したり、単元を貫く問いに対する大まかな予想や理解を促すことで、生徒一人一人が課題に対して見通しを持って主体的に学習に取り組むきっかけをつくることができていた。
- 歴史の学習において着目させたい見方・考え方を、タブレットで効率的に可視化しながら学習に取り組ませたことで、生徒の多面的・多角的な考察につなげることができた。
- 複数の思考ツールを用いたことで、知識の構造化・概念化を図ることができ、他者との協働的な学びを通して、自分の考えを吟味・更新させることができていた。
- タブレットで共有ノートを活用したが、他の生徒の意見を参考にしている一方で、他者に頼りすぎている場面も見られた。社会的事象を自分ごととして捉え、生徒自らが問いを見だし、追究していけるような単元や教材開発を行うとともに、生徒の知識の定着を図りながらICTとの効果的な活用方法を研究していく必要がある。
- 単元のまとまりの中でICTを意図的に活用したが、生徒エージェンシーの育成とどう関連付けられればよいかわからない実践になってしまった。どの場面、どのようにICTを活用することが効果的かを生徒の実態から把握するとともに、生徒一人一人の「選択」を多く促す学習をデザインしていくことが大切である。